

▼お言葉ですから▼

校長 阿南 孝也

7月の聖書の言葉は、ルカによる福音書5章、シモン(後のペトロ)たち漁師が、イエスの弟子として召し出される場面です。

イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。(中略)イエスはシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。話し終わったとき、シモンに「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。(中略)イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」。そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。(5章1～11節)

「お言葉ですから」という言葉に、シモンの複雑な気持ちが表れていると思います。漁師としてのプライドもあったでしょう。不漁で疲れている上に、プロの常識である「漁は夜、浅い場所で」に反するイエスの言葉でした。しかし、シモンは「お言葉ですが」とは言わず、イエスの言葉に従いました。そしてそのことが、生涯を決定づける出来事へとつながっていったのです。

「捨てる」という言葉に注目したいと思います。シモンたちは、舟や網を置いてイエスに従う道を選びました。私たちが進むべき道へと踏み出す時に捨てなくてはならないものは何でしょうか。生活のリズムを変えたくないという気持ちやプライドかもしれません。仕事を表す“calling”や“vocation”は、神の招きに応じてという意味が込められた言葉です。神のご意思は、しばしば人との関わりの中で示されるものです。シモンのように、自分の知識や知恵に固執することなく、「しかし、お言葉ですから」と受け入れる、小さな勇気と素直さを持って、神に委ねてみることで、それが何より大切であることを教えてくれているのだと思います。

聖書の言葉に続いて掲示されている言葉を贈ります。夏期休暇中の様々な出合いを大切にして、心身の成長につなげてくれることを期待しています。

漁師たちが、「私」を基準とした生き方から、「イエス」を基準とした生き方に導かれていった物語です。その結果、大漁という実りを得ることができました。私たちも、勉強や様々な活動において、「お言葉ですから」と受け入れる、素直な心を大切にしたいものです。